



2019年9月期

第2四半期決算説明会資料

2019年5月22日(東京)
5月23日(大阪)



1. 会社概要

2. 2019年9月期第2四半期決算サマリー

3. 今後の取り組み

(ご参考資料)

商号	IMV株式会社 [英文社名] IMV CORPORATION
会社設立	1957年(昭和32年)4月17日
資本金	4億6481万円
従業員数	362名 (2018年9月30日現在 連結)
年間売上高	110億4,492万円 (2018年9月期 連結)
上場証券取引所	東京証券取引所JASDAQ市場
証券コード	7760
決算期	9月30日



グローバルネットワーク

春日井テストラボ 2019年 1月操業開始



Osaka

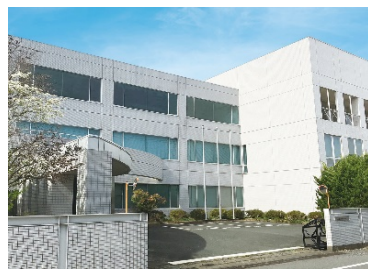
大阪



- ・本 社
- ・大阪営業所

Iruma

入間



- ・日本高度信頼性評価試験センター

Tokyo

東京



- ・東京営業所
- ・東京エンジニアリングサービス部



- ・MESエンジニアリングサービス部
- ・東京テストラボ

Kasugai

春日井



- ・春日井テストラボ

Nagoya

名古屋



- ・名古屋営業所
- ・名古屋テストラボ

Uenohara

上野原



- ・上野原サイト 高度試験センター

グローバルネットワーク

IMV TECHNO VIETNAM CO., LTDが稼働開始



Germany

ドイツ



IMV EUROPE LIMITED
German Sales Office

Thailand

タイ



IMV (THAILAND) CO., LTD

China

中国



IMV CORPORATION
Shanghai Representative Office

U.S.A.

アメリカ



IMV America, Inc.

U.K.

英国



IMV EUROPE LIMITED



IMV EUROPE LIMITED
European Manufacturing Centre



1g dynamics

Vietnam

ベトナム



IMV TECHNO VIETNAM CO., LTD

事業セグメント



メジャリングシステム

MES
Measuring
Systems



TSS
Test & Solution
Service



テスト&ソリューションサービス

18%

売上
構成比

72%

DSS
Dynamic
Simulation
Systems

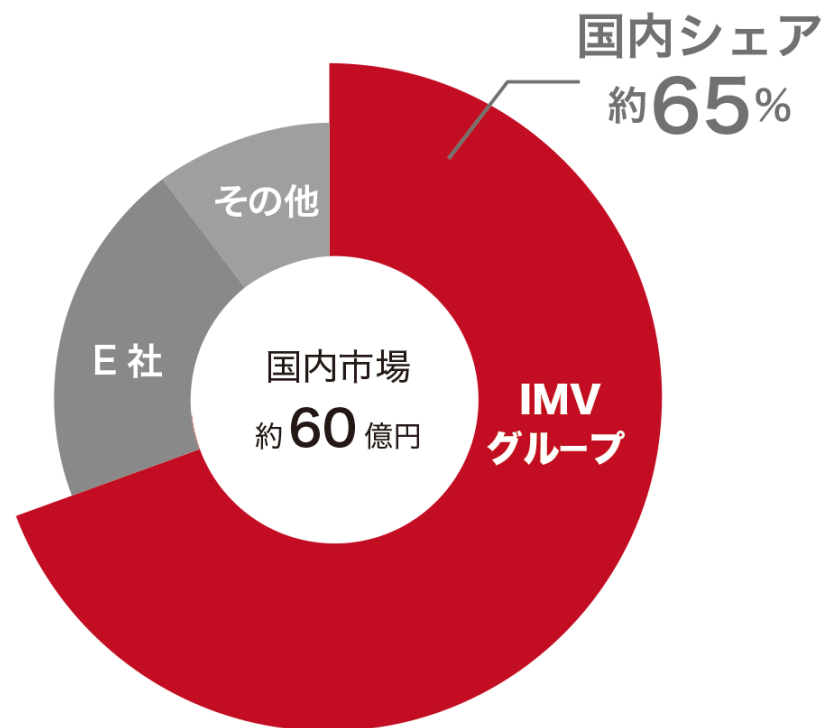
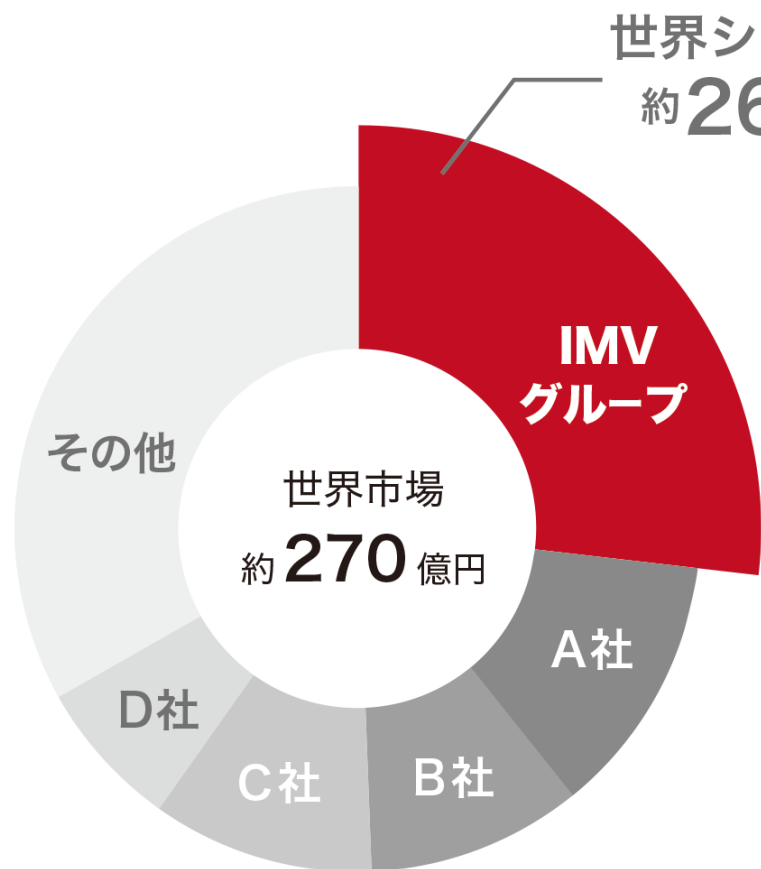
振動試験装置



63億4,389万円
(2019年9月期第2四半期 連結)

市場 DSS販売シェア状況(当社予想含む)

2018年9月期連結





本日のアジェンダ

1. 会社概要

2. 2019年9月期第2四半期決算サマリー

3. 今後の取り組み

(ご参考資料)

決算概要(連結) 1



(単位:百万円)

	19/9中間期 実績	18/9中間期 実績	コメント
売上高	6,343	5,647	国内の自動車関連業界を中心に振動シミュレーションシステムの受注が順調に推移し、大幅な増収となりました。
経常利益	682	658	関連会社の減収により利益を押し下げましたが、国内を中心にDSS事業及びTL事業における増収等により、前年同期比3.7%の増益となりました。
純資産	6,777	6,316	親会社株主に帰属する四半期純利益(511百万円)の計上により増加しました。
フリーキャッシュフロー	492	△1,233	前期は入間テストラボ土地建物の購入に伴いフリーキャッシュフローは大幅に減少しましたが、今期においては増収等の増加要因により営業活動による収入が大幅に増加し、フリーキャッシュフローも増加しました。
売上高経常利益率	10.8%	11.7%	国内売上高の増加により増収となりましたが、関係会社の減益等により、売上高経常利益率は前年同期より低下しました。
自己資本比率	41.7%	42.8%	親会社株主に帰属する四半期純利益(511百万円)の計上により純資産が増加した結果、財務安全性は引き続き堅調です。
自己資本四半期純利益率 (ROE)	7.9%	7.6%	親会社株主に帰属する四半期純利益(511百万円)が前年同期より増加した結果、自己資本四半期純利益率はさらに向上しました。

決算概要(連結) 2



(単位:百万円)

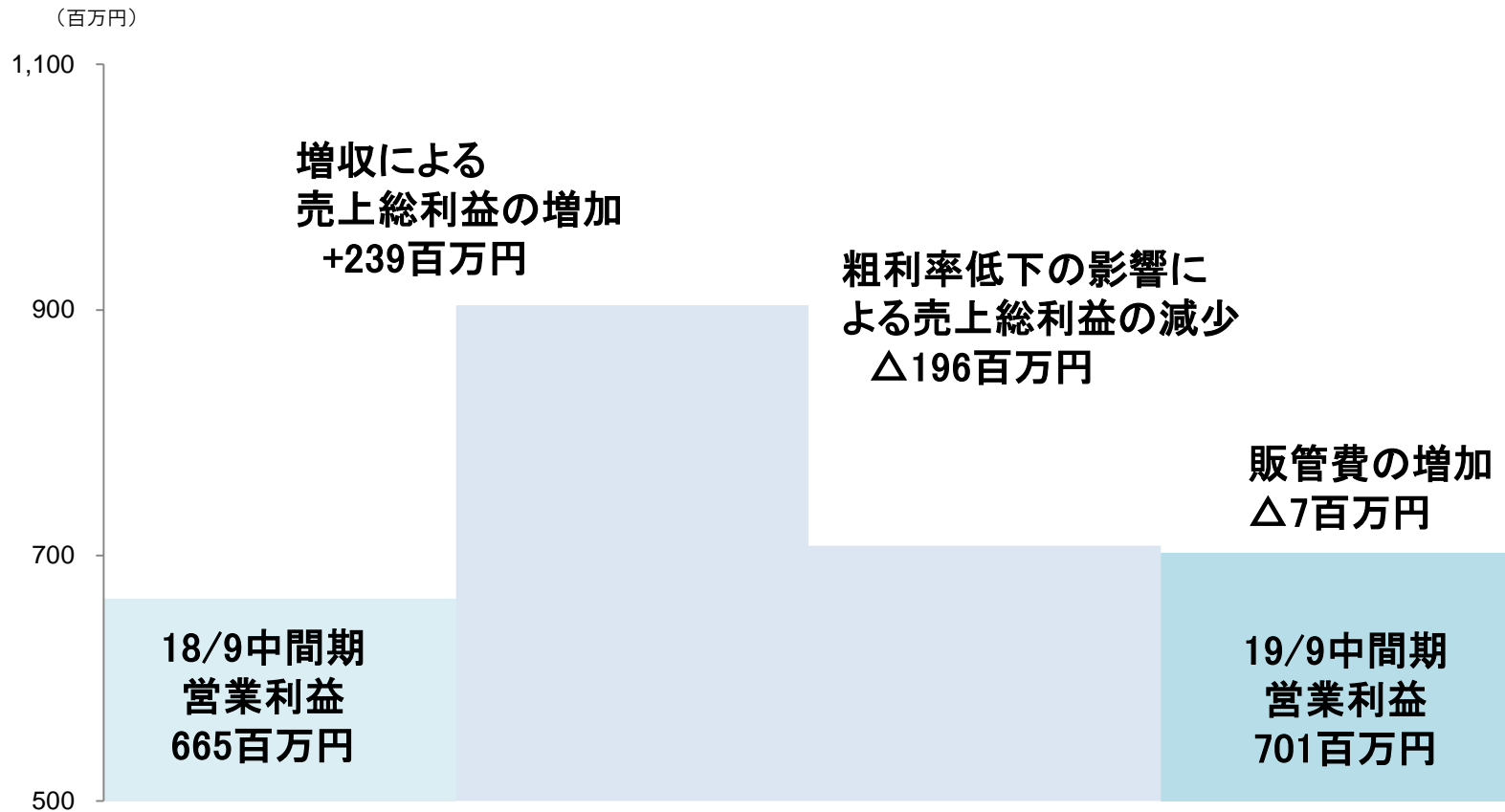
	19/9中間期 実績	18/9中間期 実績	増減額	増減率	19/9中間期 予想	達成率
受注高	5,932	6,232	△300	△4.8%	—	—
売上高	6,343	5,647	+696	+12.3%	6,500	97.6%
営業利益 (営業利益率)	701 (11.1%)	665 (11.8%)	+36	+5.5%	650 (10.0%)	108.0%
経常利益 (経常利益率)	682 (10.8%)	658 (11.7%)	+24	+3.7%	650 (10.0%)	105.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (四半期純利益率)	511 (8.1%)	457 (8.1%)	+54	+11.7%	420 (6.5%)	121.8%
設備投資額	507	1,009	△502	△49.7%	—	—
減価償却費	265	215	+50	+23.4%	—	—
研究開発費	190	208	△18	△8.8%	—	—
従業員数(人)※	372	367	5	+1.4%	—	—

※△は損失、減少を表します。従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

売上高は前年同期比696百万円増収の6,343百万円となりました。増収効果により、営業利益は前年同期比36百万円増益の701百万円となり、為替差損の影響がありましたが、経常利益は前年同期比24百万円増益の682百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比54百万円増益の511百万円となりました。



営業利益増減要因(連結)

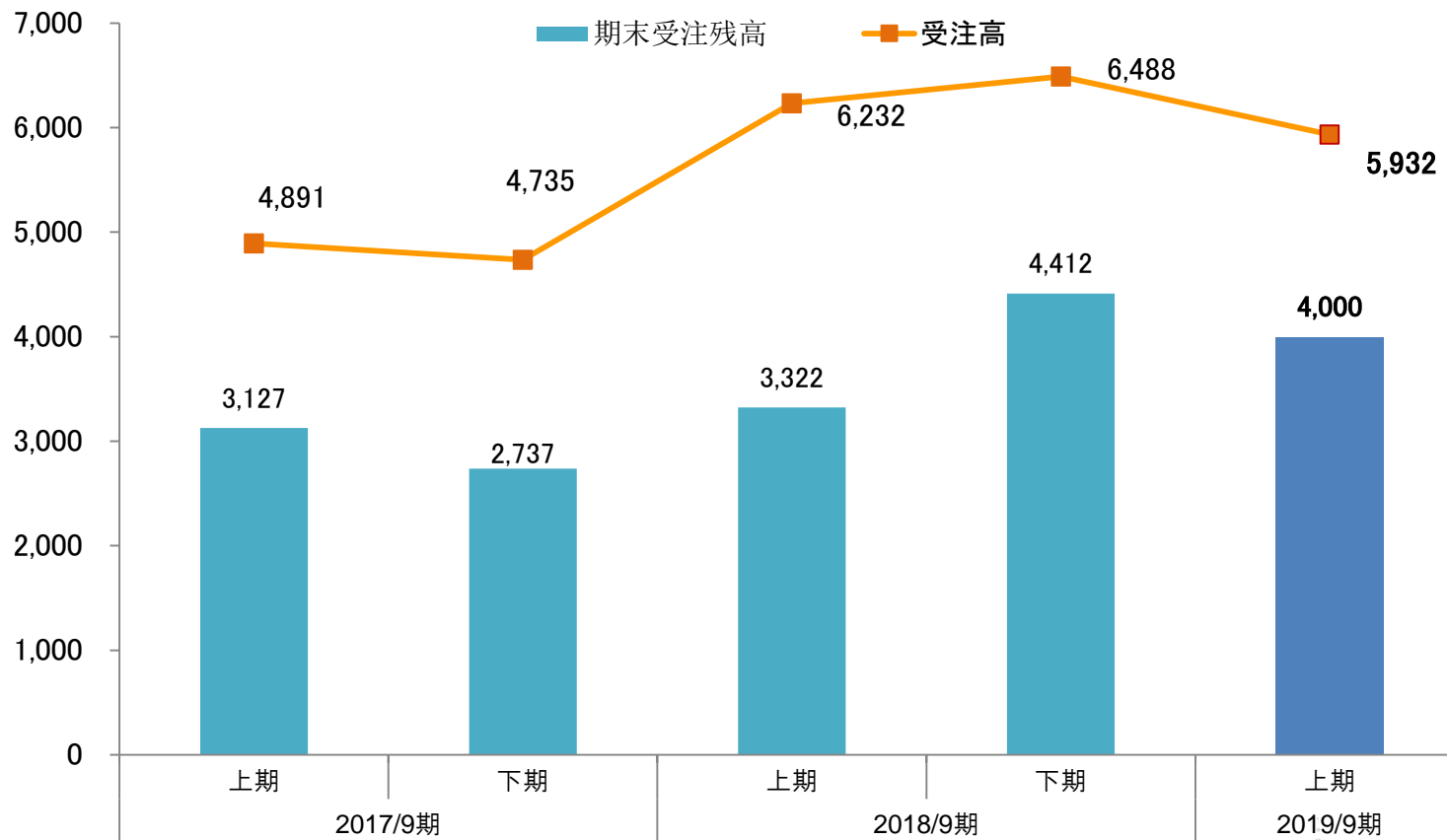


関係会社の減益等により売上総利益率が低下しましたが、増収による売上総利益の大幅な増加により、営業利益は36百万円の増益となりました。

受注の状況



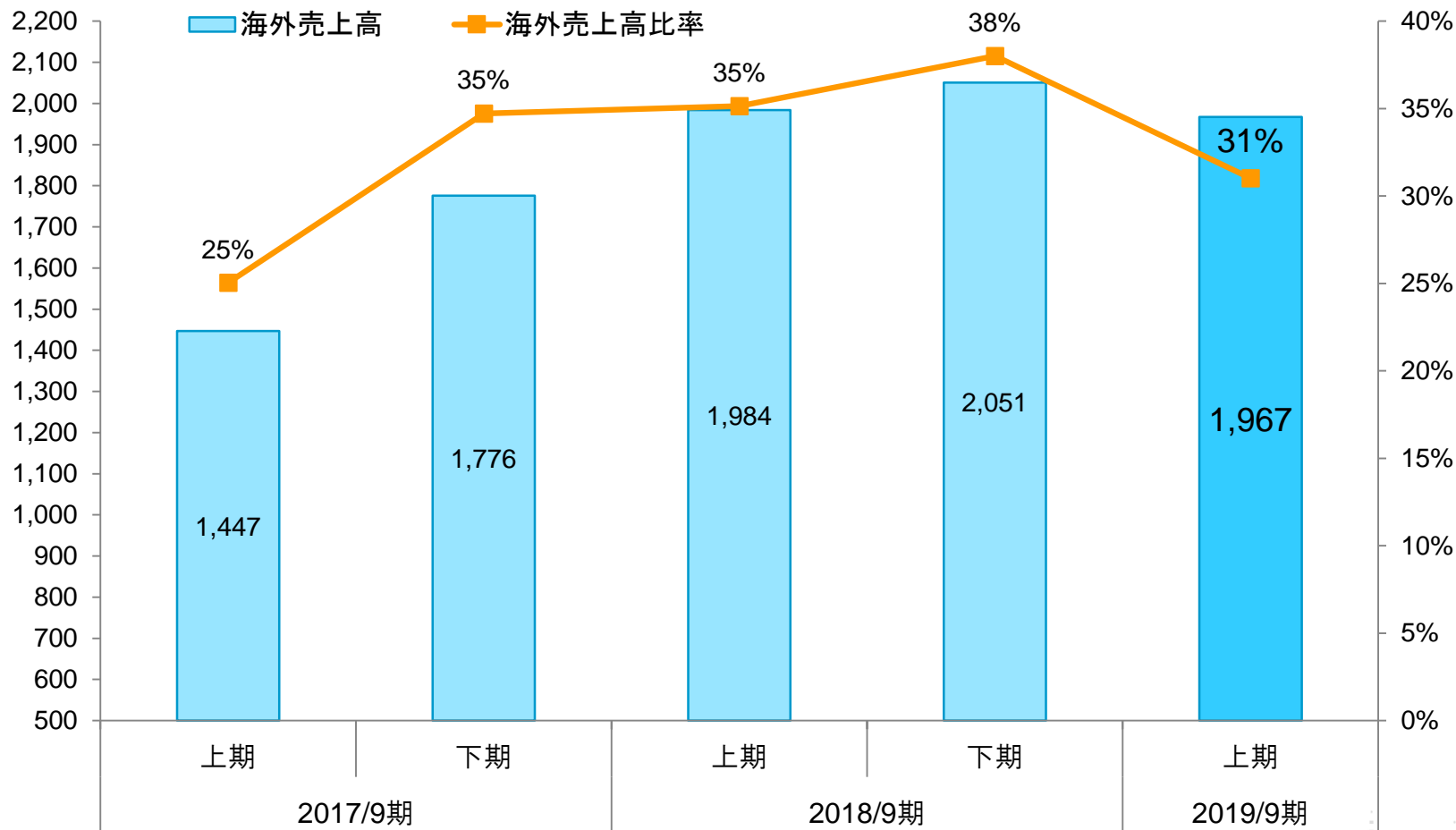
(百万円)



海外売上高比率の増減



(百万円)



品目別ポートフォリオ

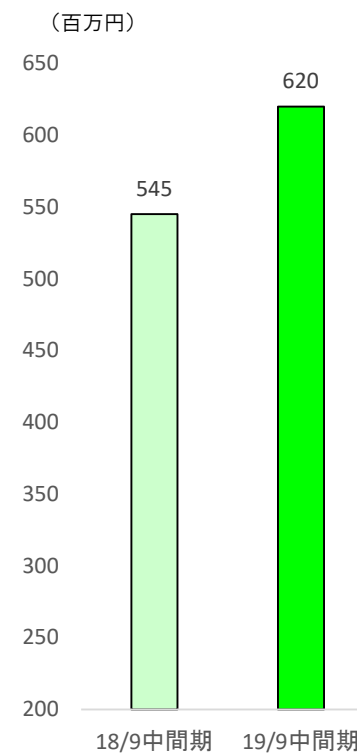
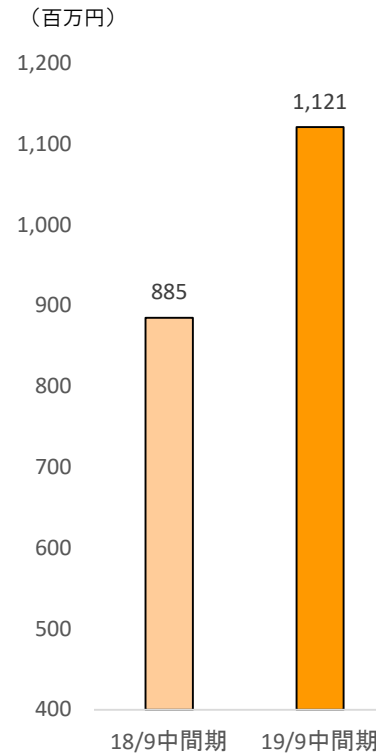
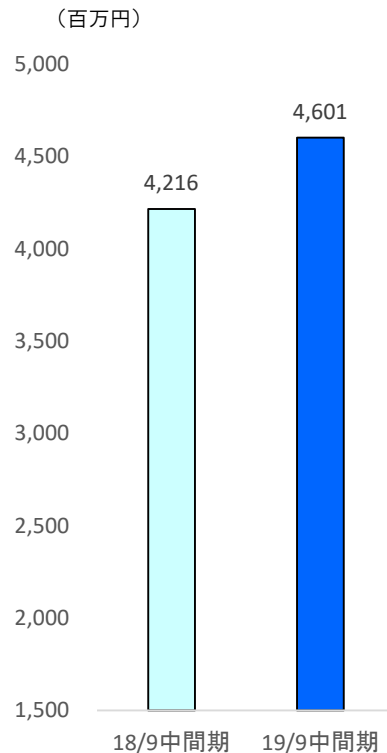
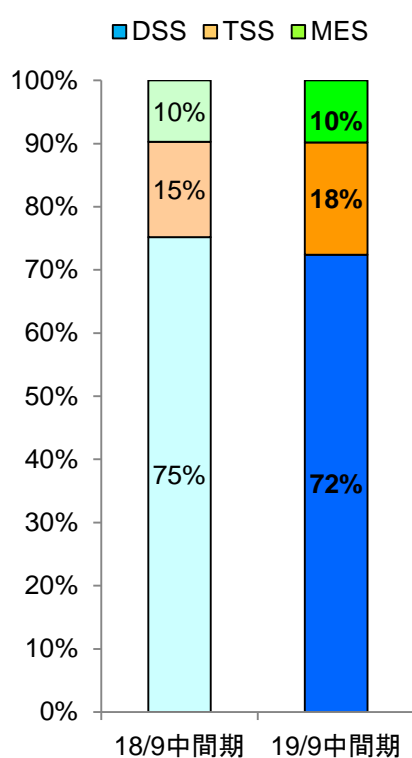


○ 品目別売上構成率

○ DSS事業

○ TSS事業

○ MES事業



DSSにおいては国内の大幅な増収、MESにおいても地震計の売上高が増加し、さらにTSSにおいては上野原高度試験センターにおける売上伸張により、全ての品目で増収となりました。

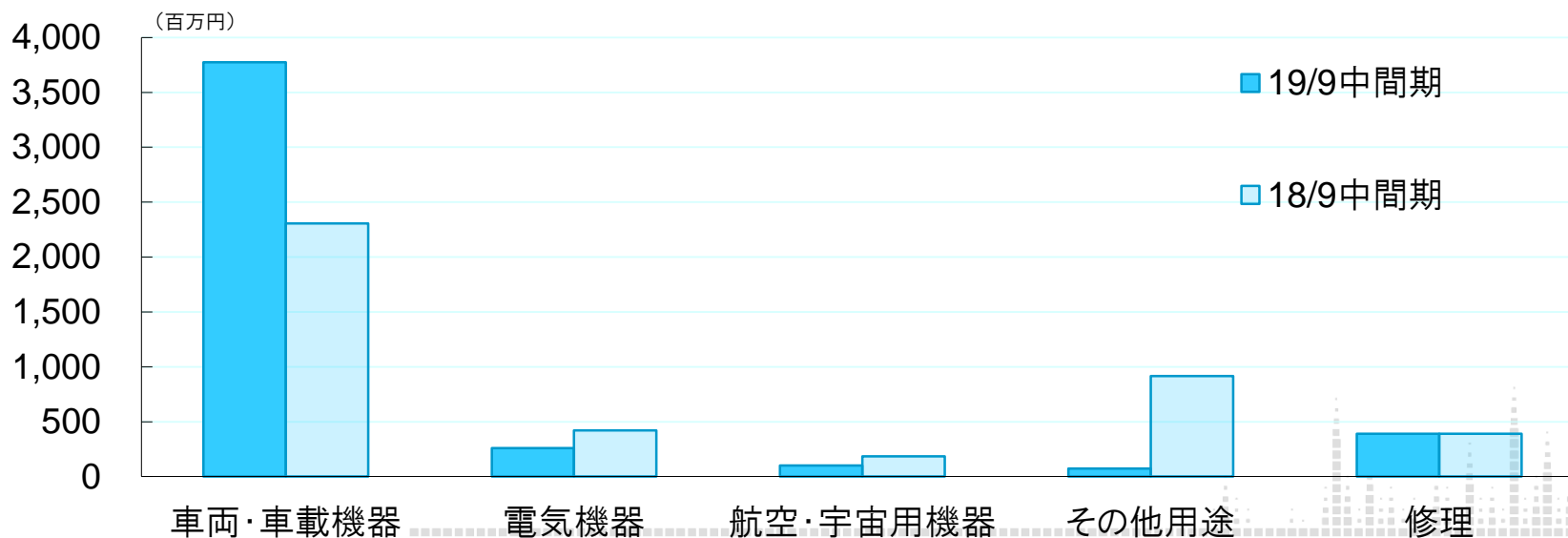
DSS事業 ～概況～



(単位:百万円)

	19/9中間期	18/9中間期	増減額	増減率
車両・車載機器向け	3,775	2,305	1,470	63.8%
電気機器向け	259	421	△162	△38.4%
航空・宇宙用機器向け	102	184	△82	△44.7%
その他用途向け	74	915	△840	△91.9%
点検・修理	391	391	0	0.0%
合計	4,601	4,216	385	9.1%

- 電気電子業界向け売上高は減少しましたが、国内自動車関連業界を中心に順調に推移し、さらに米国において売上が好調だった結果、増収となりました。
- 国内外の公的試験場及び研究機関向け売上高は、一時的な減収となりました。



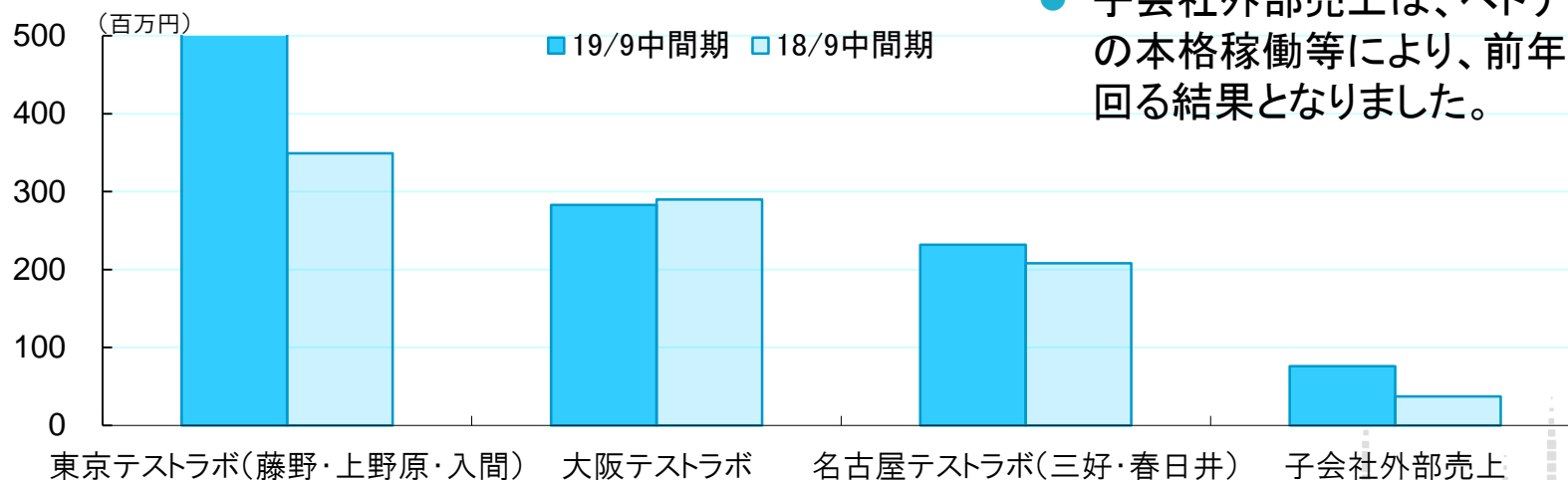
TSS事業 ～概況～



(単位:百万円)

	19/9中間期	18/9中間期	増減額	増減率
東京テストラボ (藤野・上野原・入間)	528	349	179	51.3%
大阪テストラボ	283	290	-7	-2.4%
名古屋テストラボ	232	208	24	11.5%
子会社外部売上	76	37	39	105.4%
合計	1,121	885	235	26.6%

- 東京テストラボ上野原サイトは、大型高額案件の受注により増収となりました。
- 一方、大阪テストラボは、鉄道業界からの受注が前年同時期と比較して減少した結果、減収となりました。
- また、名古屋テストラボにおいては、春日井テストラボの稼働などにより、前年同期を上回る結果となりました。
- 子会社外部売上は、ベトナム子会社の本格稼働等により、前年同期を上回る結果となりました。



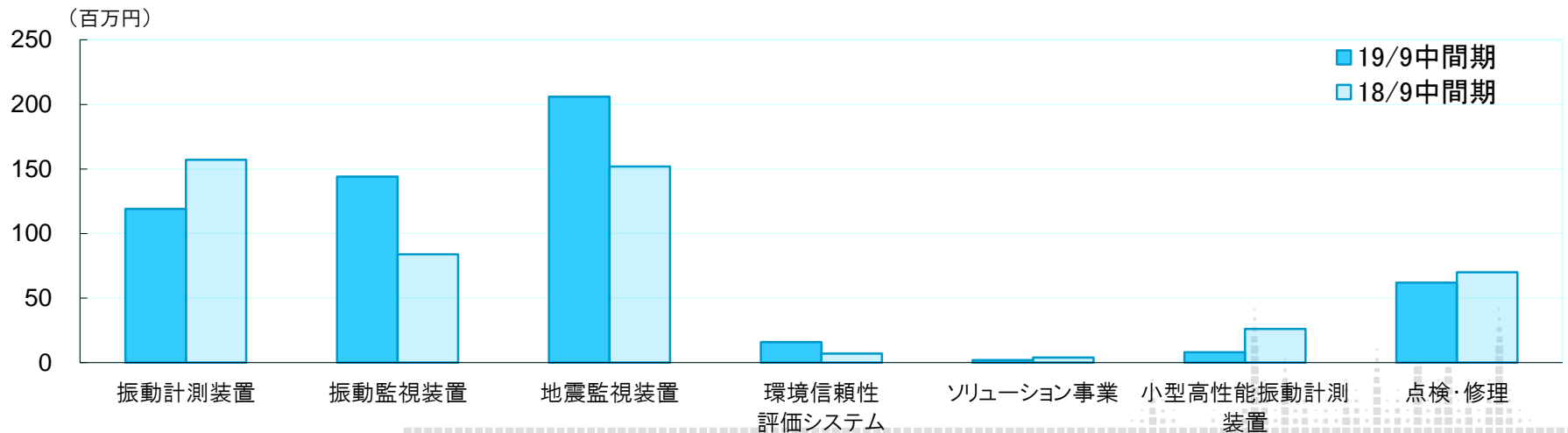


MES事業 ～概況～

(単位:百万円)

	19/9中間期	18/9中間期	増減額	増減率
振動計測装置	119	157	△37	△24.0%
振動監視装置	144	84	59	70.2%
地震監視装置	206	152	53	35.1%
環境信頼性評価システム	16	7	8	112.8%
ソリューション事業	2	4	△1	△37.4%
小型高性能振動計測装置	8	26	△17	△67.5%
点検・修理	62	70	△8	△11.5%
子会社外部売上	59	40	18	47.0%
合計	620	545	75	13.8%

- 電力会社や製造プラント向け大型振動監視装置及び海外向け地震監視装置の売上は好調で、増収となりました。
- 一方で、振動計測装置の売上高が伸びず、前年同期を下回る結果となりました。



業績の見通し(連結)



(単位:百万円)

	19/9期 予想	18/9期 実績	増減額	増減率
売上高	12,000	11,044	+955	+8.6%
営業利益 (営業利益率)	1,200 (10.0%)	858 (7.8%)	+341	+39.8%
経常利益 (経常利益率)	1,200 (10.0%)	918 (8.3%)	+281	+30.7%
親会社株主に帰属する当期純利益 (当期純利益率)	780 (6.5%)	578 (5.2%)	+202	+34.9%
設備投資	815	1,772	△957	△54.0%
減価償却費	677	477	+200	+42.0%
研究開発費	616	437	+179	+41.0%
従業員数(人)※	374	362	+12	+3.3%
1株当たり配当金(円)※	8.0	8.0	0	0%

※ 従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

※ 2019年12月開催予定の定時株主総会において上記配当金を附議する予定です。



本日のアジェンダ

1. 会社概要

2. 2019年9月期第2四半期決算サマリー

3. 今後の取り組み

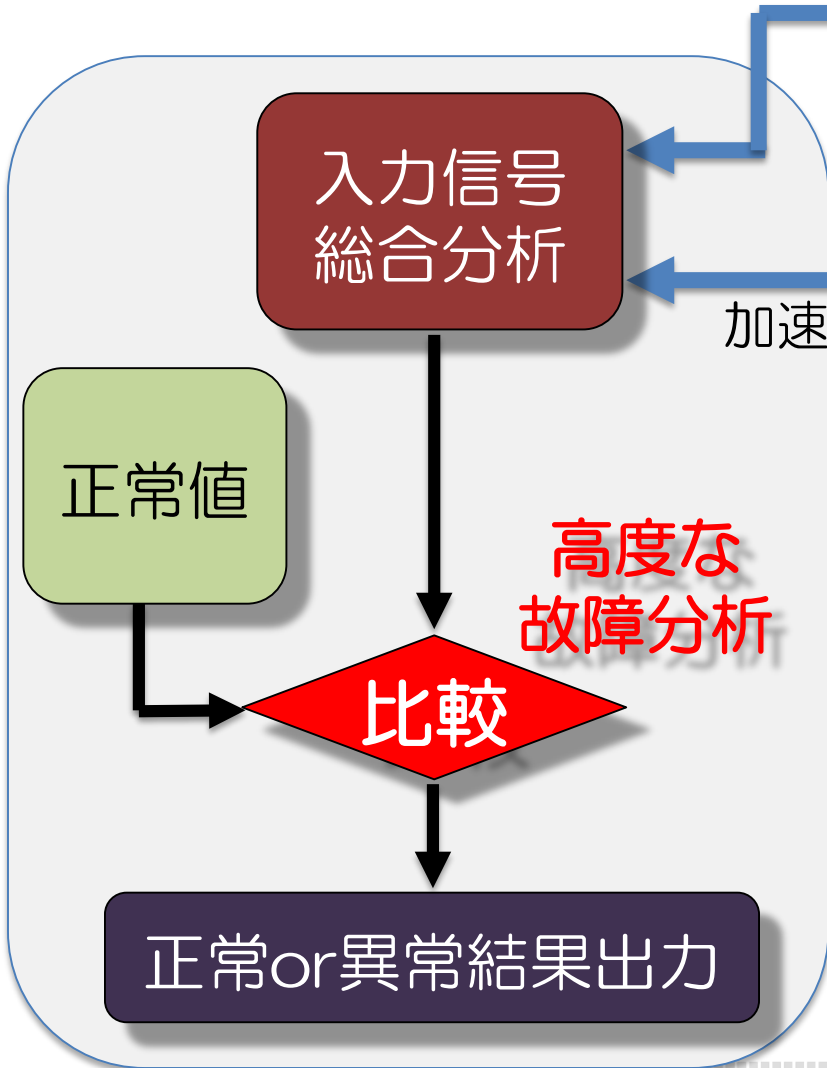
(ご参考資料)



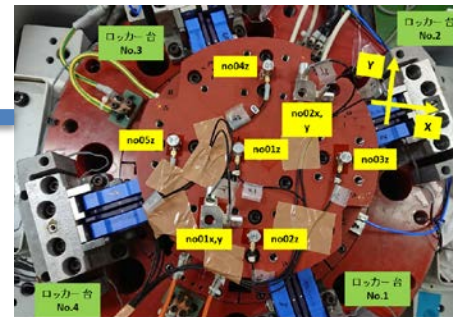
DSS事業の取り組み① 自己診断システムの実用化

1. 自己診断システムの概要

電流・電圧



多自由度加速度センサ



加速度



DSS事業の取り組み① 自己診断システムの実用化

2. メンテナンスサービスへの応用



異常判定
安全停止



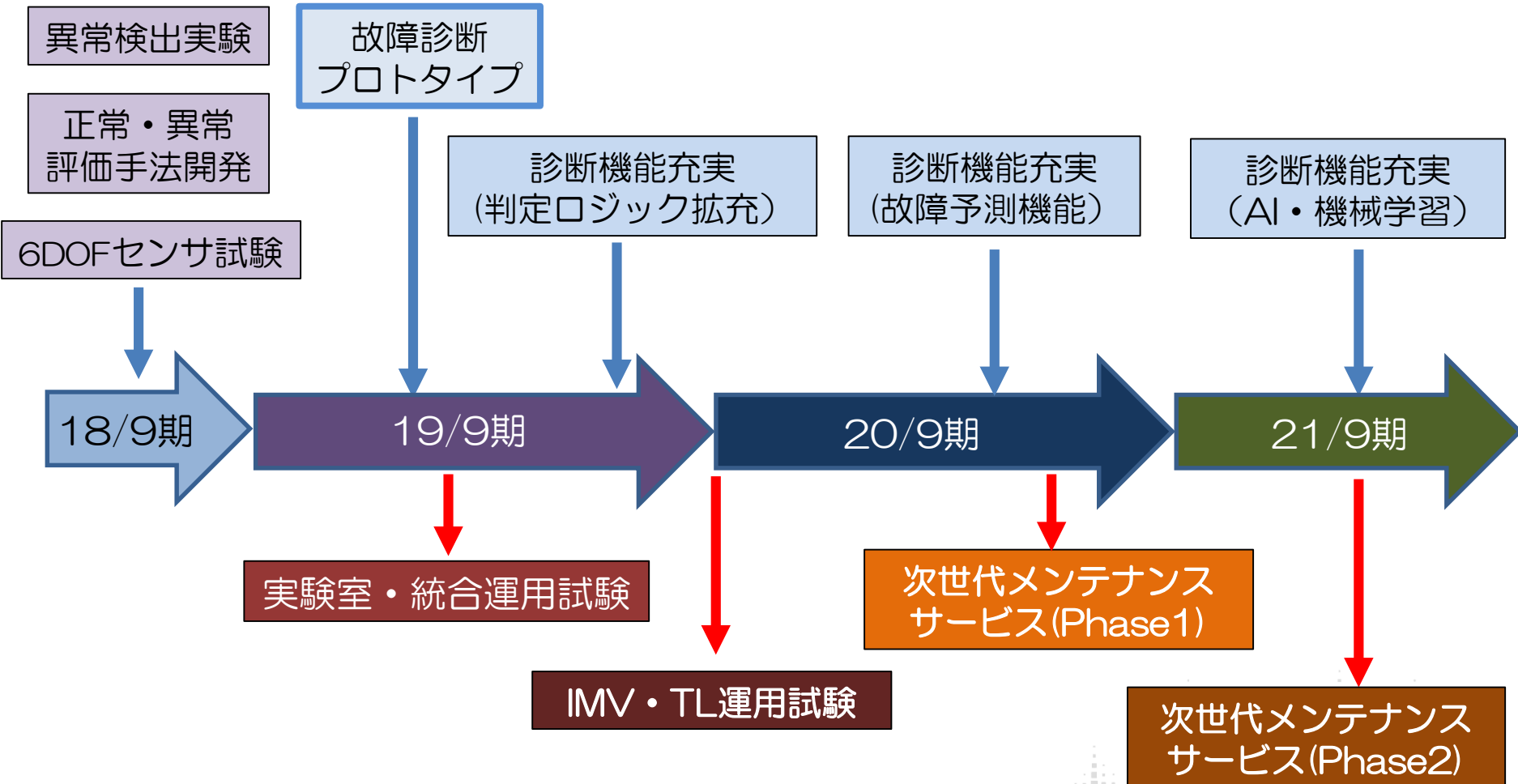
異常判定
劣化検出





DSS事業の取り組み① 自己診断システムの実用化

3. 自己診断システム開発ロードマップ

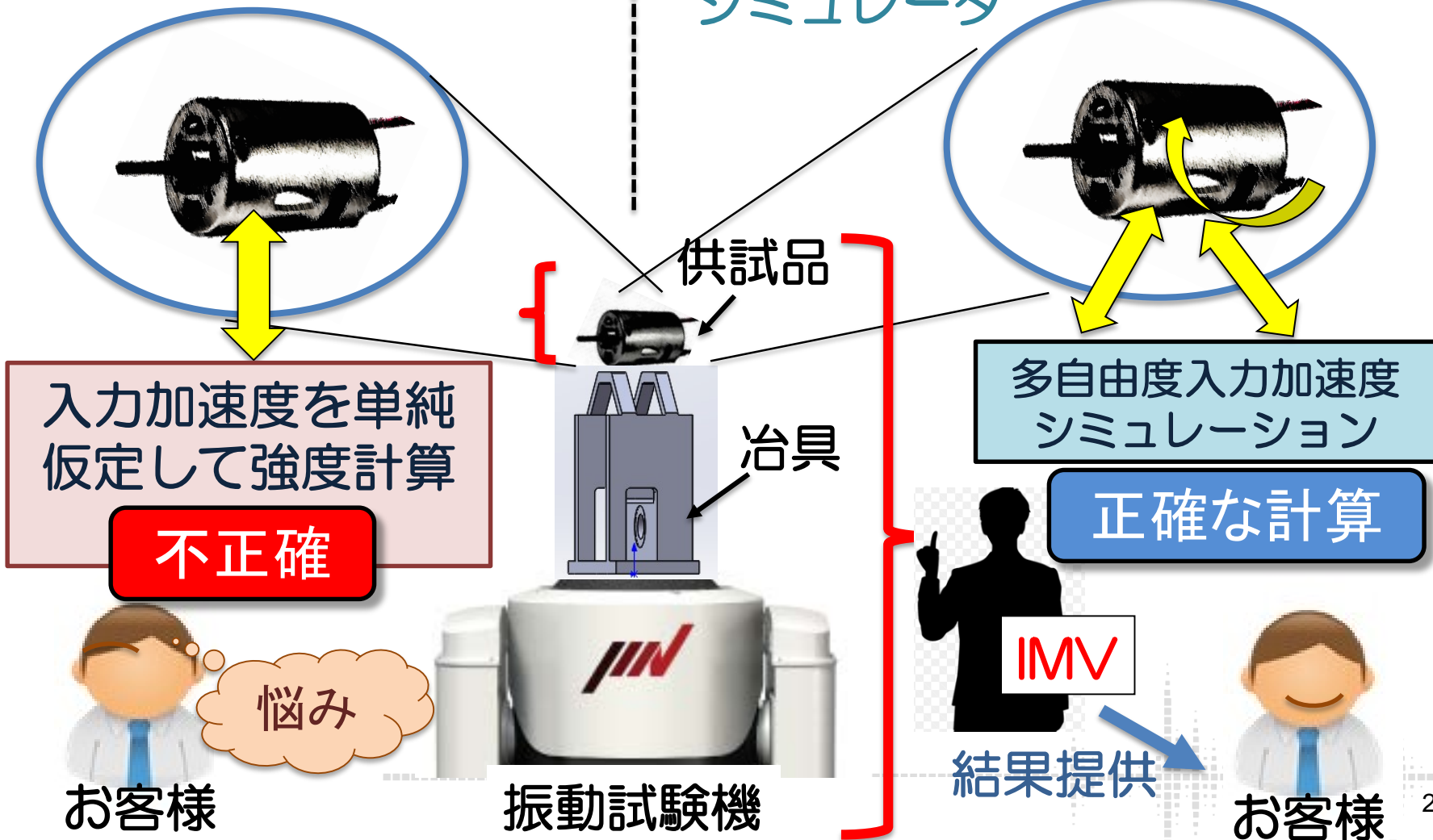


DSS事業の取り組み② 加振状態シミュレータの実用化

1. 加振状態シミュレータの概要

従来手法

加振状態
シミュレータ

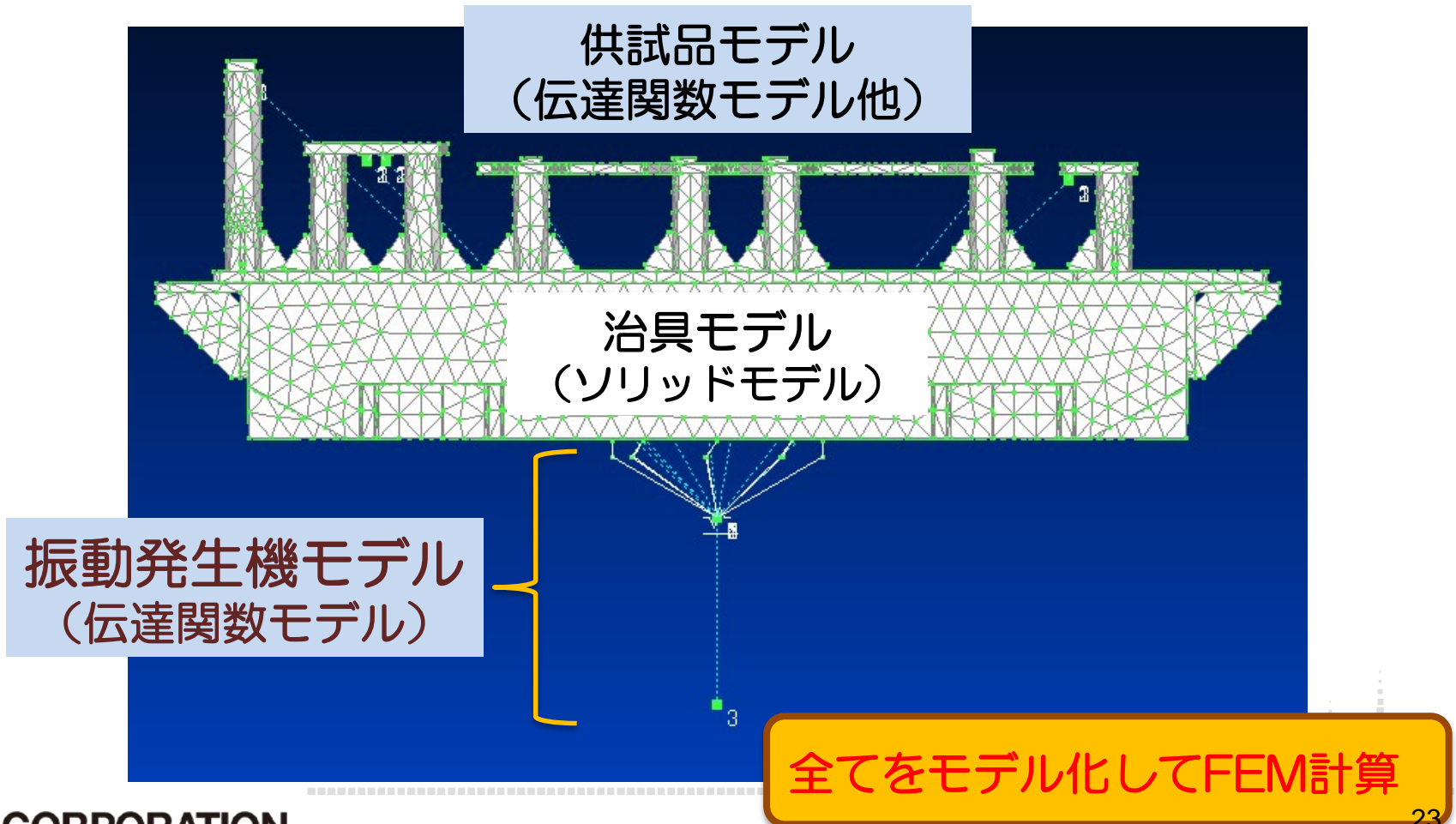




DSS事業の取り組み② 加振状態シミュレータの実用化

2. 全体FEMモデル（有限要素法モデル）

加振状態シミュレータ ← IMVだけが実施可能



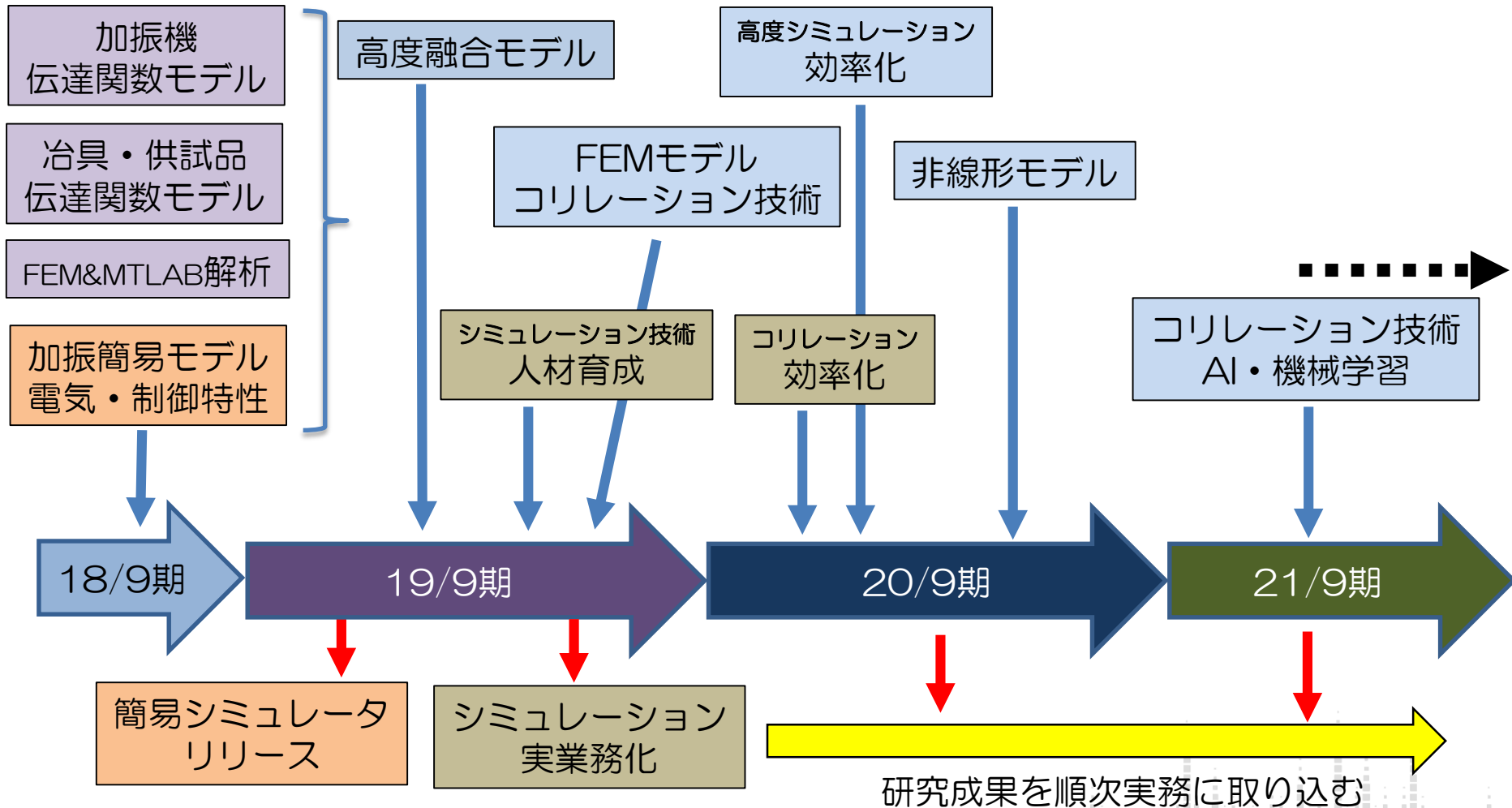


3. 加振状態シミュレータの利点

- 最適な振動試験治具の設計・製作
- 振動試験結果の予測精度向上
- テストラボ振動試験の付加価値向上
- （お客様の）製品開発サイクルのスピードアップ



4. 加振状態シミュレータ開発ロードマップ





DSS事業の取り組み③ 顧客ニーズの大型化

1. 振動試験装置の引合いは、大型化へ

従来、航空宇宙業界が主な需要先となっていた大型振動試験装置が、その他業界において需要が増加

～15年以前 : 62kNの試験機需要
7年頃前～ : 125kNの試験機需要
5年頃前～ : 200kNの試験機需要
3年頃前～ : 300kN以上の試験機需要

- ・製品(試験品)の大型化(治具の大型化)
- ・製品(試験品)をアッセンブリで評価することによる大型化
- ・試験条件の高加速度化

$$F = ma$$

(加振力) × (質量) × (加速度)



DSS事業の取り組み③ 顧客ニーズの大型化

2. 業界別ご要望事項の一例

航空宇宙・防衛業界

人工衛星、ロケット等の評価において、従来より大型製品の大加速度ランダム試験による評価が必要。(JAXA様ほか)

自動車業界

製品アッセンブリにより大型化した製品を従来試験条件(高加速度)で加振試験を行いたい。※主な製品はLi電池パック

建設機械業界

劣悪な環境で使われる建設機械は製品重量が大きく重い為、治具も大型化。それら大型製品を高加速度で加振試験を行いたい。



3. 大型製品の導入事例

350kN 水冷式大型振動試験装置をPATAC社(中国 上海)に導入

水冷式大型振動試験装置Kシリーズ(大加振力350kNクラス)を中国上海の自動車開発メーカー— Pan Asia Technical Automotive Center様(以下、PATAC社)が2020年に導入決定。

今回販売されるK350は、PATAC社が現在建設している次世代電気自動車の開発・評価センター内に設置され、これにより、EV車の普及にともない需要が増えたバッテリーやモーター等の振動試験が実施可能となる。

K350は大型の加振台を有しており(振動台寸法は水平:3×3m、垂直:3×2.3m)、バス用の大型バッテリーなどを対象とした振動試験にも対応。



【振動試験装置:K350】

水冷式大型機の受注・商談状況(19/3現在)

	受注残	商談中
K200シリーズ	4件	11件※
K350シリーズ	2件	5件

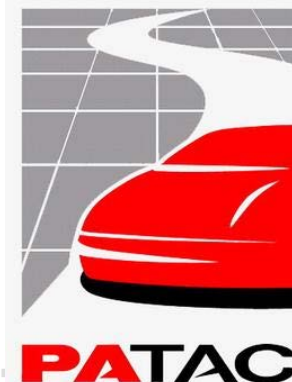
※見積書提示(10件超)を含まない



DSS事業の取り組み④ 海外展開の加速

1. 販売力のさらなる強化

- 欧州： 専門性を有した営業員を増員し、他社を圧倒する提案力とスピードを強化する
- 米国： 米国全土をカバーできる営業網が完成。
差別化製品で自動車業界、エアロスペース業界の需要を狙う。
- 中国： 低価格競争を避け、日系、欧米系に集中しEV関連の市場での大型機の受注増を見込む。
さらに、大型機の納入実績を活用し、関連企業への拡販を狙う。





2. サービス品質の向上

- 定期的なサービストレーニングにより、代理店の対応力を向上、迅速で質の高いサービス提供を目指す。
- 米国デトロイトに設立したサービス拠点、パーツセンターにより、他社が追従できないスピード対応を目指す。
- 英国 **1G Dynamics Ltd** (連結子会社) を活用し、IMV以外の製品のサービスまでビジネス範囲を拡大する。

3. 試験サービスとしてのTier-1 Company

- **IMV Techno Vietnam**
自動車メーカー2社から1次下請けとしてEV関連製品の評価試験を受注。単なる試験の請負ではなく、自動車メーカーの評価部門としての役割を担える試験所を目指す。
- **IMV Thailand**
市場要求を先取りした設備投資を行い、業務範囲の拡大、開発部門からの受注増を狙う。

TSS事業の取り組み① 19/9期上期戦略の総括



市場

新

高度試験センター化

- ・電池試験
名古屋・大阪展開

E-mobility/e-TCJ(入間)

- ・振動+塩水+冷熱
・EMC試験展開決定

現

大型化

- ・国内最大機設置
(35t機上野原)

大規模化

- ・加振機30台(春日井)

仕込み中

現

新

組織能力

TSS事業の取り組み② e-TCJ設立(埼玉県入間市)

日本高度信頼性評価試験センター (e-TCJ)



2018年12月操業開始

目的：EV構成部品を中心とした信頼性評価

対象業界：EV車及び同部品メーカー様

試験内容：提携メーカー・試験機関との連携で
全試験に対応可能

<e-TCJ内実施試験>

振動試験、塩水噴霧・温度衝撃・
腐食試験等の環境負荷試験
各種EMC試験

e-TCJ
e-TEST CENTER JAPAN



所在地：埼玉県入間市宮寺
敷地面積：**5,686^{m²}**
建物面積：A棟 3,400<sup>m²
 B棟 1,200^{m²}</sup>

TSS事業の取り組み② e-TCJ設立(埼玉県入間市)

日本高度信頼性評価試験センター (e-TCJ) の特徴

1. 「入間」というロケーション(圏央道入間インターより10分)
2. 大型部品(100kg・1m x 2)の評価が可能(モーター・インバーター・ECU)
3. 駆動させながらの評価が可能(200v、100Aの電源を用意)
4. EMC試験:iNARTEエンジニア(2名) / iNARTEデザインエンジニア(1名)の布陣
5. ワンストップサービス(提携メーカー・試験機関との連携で全試験に対応可能)

振動試験装置



腐食促進試験装置



ハイストレス
温度サイクル試験装置



TSS事業の取り組み③ 春日井ラボ開設(愛知県春日井市)

春日井テストラボ 2019年1月操業開始

振動試験機30台を設置

JAPAN TESTING LABORATORIES(株)
(略称JTL)
春日井事業所(信頼性評価試験)内に

「IMV振動試験ラボ」を展開

複合試験装置を中心に30台を装備し、
「お待たせしない」「お断りしない」ラボ
を開設

加えて、お客様に

IMV JTL
振動試験 + 信頼性評価

のワンストップサービス(利便性)を
提供する。



愛知県春日井市上条町3-24-5

(現)名古屋ラボ(みよし市)は設備を入替え
「名古屋高度試験センター」として

- * 電池試験
- * 高精度振動試験／衝撃試験等の特殊試験

サービスを提供する。



春日井事業所 (JTL)レイアウト

春日井事業所1階約4500m²に

- ①信頼性評価エリア
- ②振動試験エリア を配置
(加振機30台を装備)

<振動試験特徴>

- * 中型(2~6t)機中心
- * 温度槽付複合試験装置23台

「お待たせしない」「お断りしない」

IMV振動試験エリア



MES事業の取り組み① 機械の予知保全(CMS)を振動でIoT化 ラムダバイブロの発売 (2018年) →顧客への浸透

CMSとは
Condition Monitoring Systemの略

日本経済新聞より



「ラムダバイブロ分析システム」による故障の早期発見イメージ



振動CMSユニット
【ラムダバイブロ VM-8018】

NTTテクノクロス様との協業で市場投入(2018年開始)

MES事業の取り組み② 建築物の健全性を振動で診断

1. SHMシリーズでIoT化

橋の老朽化 振動で検知 IMV、自治体や企業向け
データ解析技術を応用

2017/10/24付 | 日本経済新聞 地域経済



有線版【HM-0013】



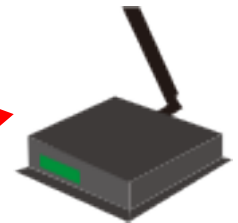
無線版【HM-5013-S】2019年製品化
“後付け”が可能に。

MES事業の取り組み② 建築物の健全性を振動で診断

2.【官需】国土交通省の「SIPプログラム」 で実験採用

<取付状況>

大阪市立大学
京都大学
IMVで実証実験
独自診断方法を確立



ゲートウェイGW-0013が
データをクラウドへ



上部センサ



下部センサ

橋脚上下に取り付けられた振動計測器の振動レベルを比較する事で
洗掘の状況を常時モニタリングします。

MES事業の取り組み② 建築物の健全性を振動で診断

3. 【官需】 国土交通省の目的はインフラ健全化

→長期のビジネスに発展



橋脚の洗掘・沈下 国土交通省「下部構造の損傷事例」より

橋を常時
モニタリング

増水時に
計測値を比較

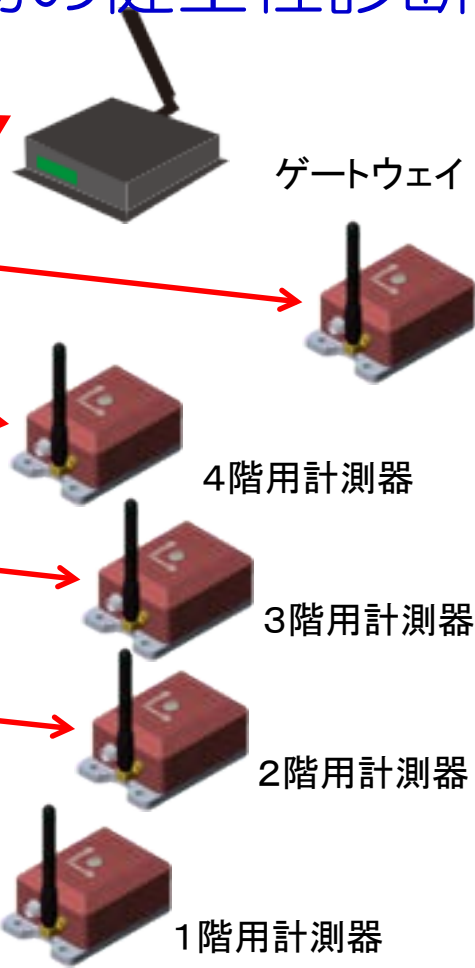
平時に
異常な値を検知

点検・補修
を実施

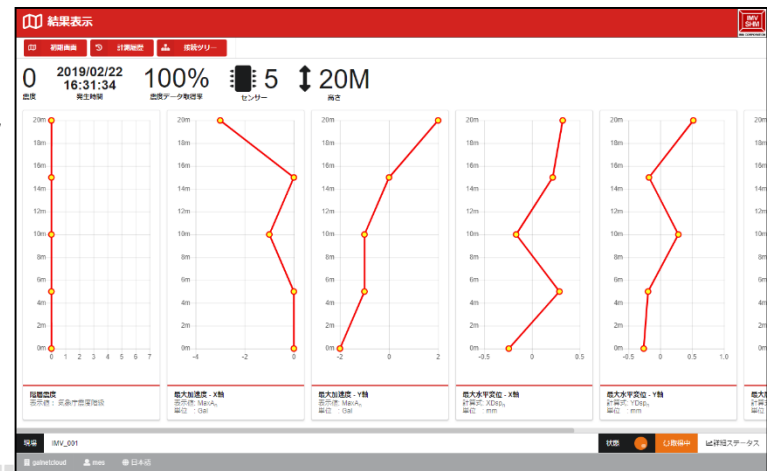
橋を長く
使う

MES事業の取り組み② 建築物の健全性を振動で診断

4.【民需】建造物の健全性診断 ~ビルの場合



地震等によるビルの変形を確認。
建て直しの判断に利用



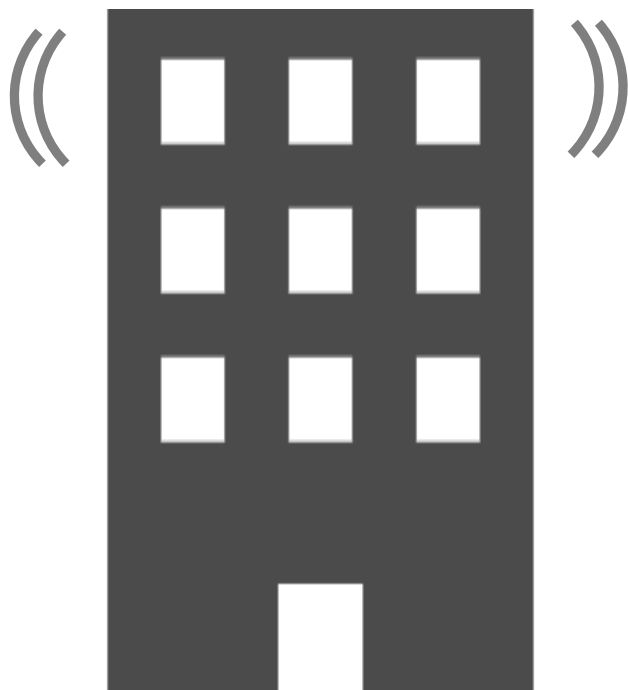
MES事業の取り組み③ 地震計の販売拡張

1.【民需】地震計と保険会社のビジネスマッチング

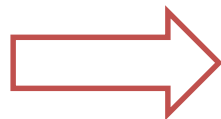
BCPに向けた課題

Business Continuity Planning

気象庁は震度6と言ったが
都市ごとの震度だけで保険申請できるのか？
個別のビルの被災状況の客観的基準は??



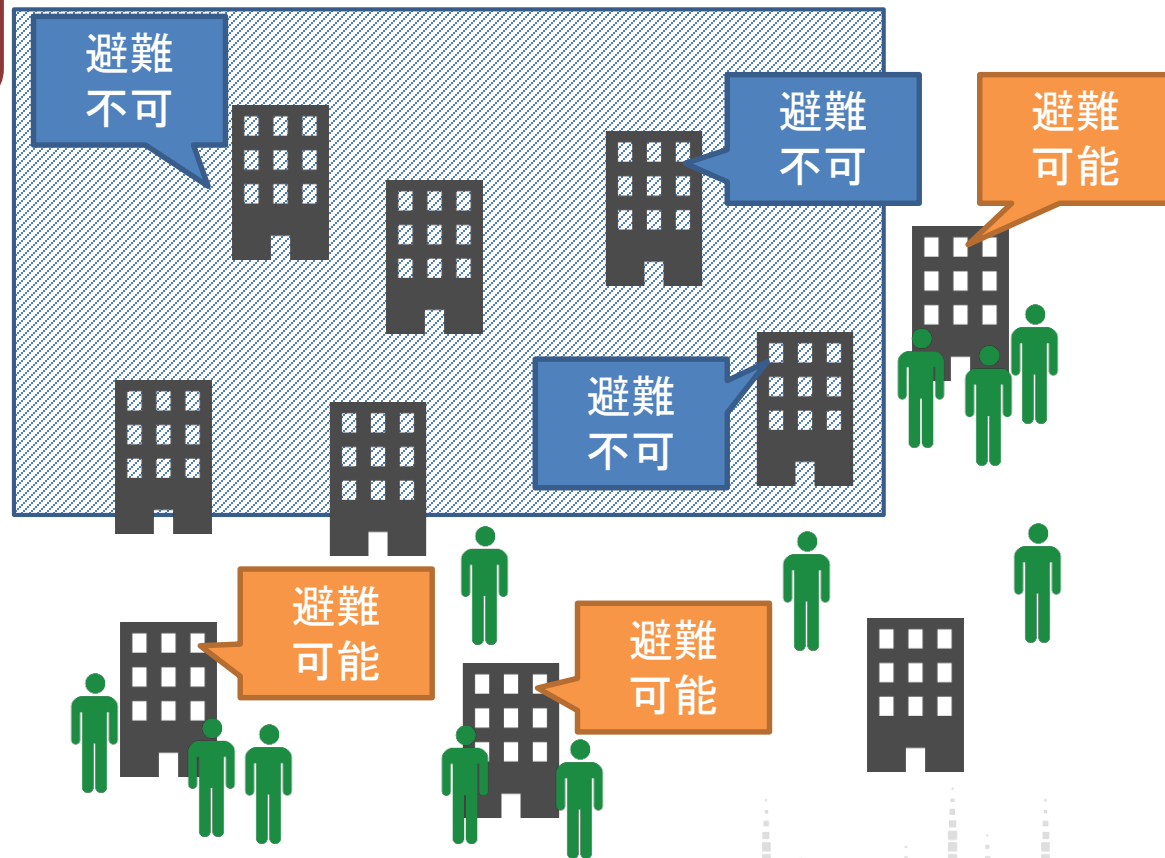
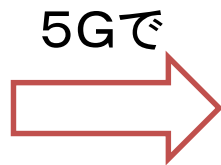
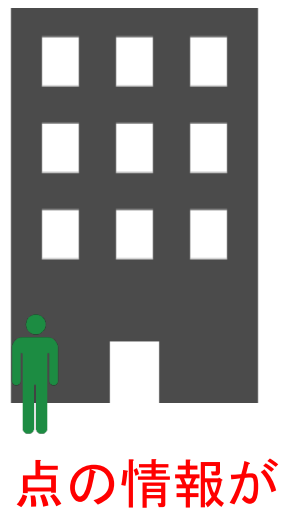
大きな地震の後



地震保険取扱会社のニーズに対応するべく、
建物状態の把握を保険約款に取込むための取り組みを開始

2. 5G通信の普及により地震計の可能性が拡大

避難所の被災状況を瞬時に特定



面の情報に発展(時刻同期機能も活用)



MES事業の取り組み③ 地震計の販売拡張

3. 日本の防災技術を海外展開

インドで開催された第3回日印防災協力会議にJBP会員9社、計31名が参加し、日印防災ビジネス商談会が開催されました



日本防災プラットフォームホームページより(19年3月26日)
<https://www.bosai-jp.org/ja/news/detail/185>



IMV は日本防災プラットフォームに参加し、海外への防災協力を進めています。

MES事業の取り組み④ 各種機関とのコラボレーション

政府系各機関と共に歩み、官需・民需ともに
息の長いビジネス展開を目指します。



このIMV-SHMロゴマークは、IMV-SHM振動センサモジュールを応用した全ての製品で使用可能です(協力会社、OEM含む)。



本発表内容の一部には、国立研究開発法人産業技術総合研究所での受託研究の成果が応用されています。



本発表内容の一部は、内閣府総合科学技術・イノベーション会議の「SIPインフラ維持管理・更新・マネジメント技術」によって実施されました。



本発表内容の一部は、「大阪市イノベーション創出支援補助金」にて実施されました。



IMV株式会社は、日本防災プラットフォーム(JBP)に参加しています。

ありがとうございました



代表取締役会長

小嶋 成夫

代表取締役社長

小嶋 淳平

経営企画本部長

濱里 一也

■ お問い合わせ先

IR窓口：経営企画本部経理部 IR担当 竹本

TEL： 06-6478-2565

FAX： 06-6478-2567

06-6478-2562(個人株主さま)

E-MAIL： imvir@imv.co.jp

<http://www.imv.co.jp>

○免責事項

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。



本日のアジェンダ

1. 会社概要

2. 2019年9月期第2四半期決算サマリー

3. 今後の取り組み

(ご参考資料)

貸借対照表の概要(連結)



(単位:百万円)

	19/9 中間期末	18/9 期末	増減額		19/9 中間期末	18/9 期末	増減額
流動資産	9,333	8,929	403	流動負債	7,462	7,239	222
現金預金	2,008	1,672	336	仕入債務	2,872	2,685	187
売上債権	4,671	4,348	△ 323	短期有利子負債	3,251	3,251	0
棚卸資産	2,485	2,585	△ 99	その他流動負債	1,339	1,302	37
その他流動資産	169	324	△155	固定負債	1,701	1,709	△ 7
固定資産	6,607	6,426	180	長期有利子負債	1,351	1,332	19
有形固定資産	5,732	5,513	219	その他固定負債	349	376	△ 27
無形固定資産	342	365	△ 23	負債合計	9,163	8,948	215
投資その他資産	532	547	△ 15	純資産合計	6,777	6,407	369
資産合計	15,940	15,356	584	負債・純資産合計	15,940	15,356	584

資産の部 : 現金預金が403百万円増加し、売上債権が323百万円減少いたしました。

負債の部 : 仕入債務が187百万円増加いたしました。

長期有利子負債は19百万円増加いたしました。

純資産の部 : 純資産は369百万円増加いたしました。

キャッシュフロー計算書の概要(連結)



(単位:百万円)

		19/9中間期	18/9中間期	増減額
①	営業活動によるキャッシュ・フロー	978	△ 101	1,080
②	投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 485	△ 1,132	646
①+②	フリーキャッシュフロー	492	△ 1,233	1,726
③	財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 108	948	△ 1,057
④	現金及び現金等価物に係る換算差額	△ 5	0	△ 5
⑤	現金及び現金同等物の増減額	378	△ 285	663
⑥	現金及び現金同等物期首残高	1,374	1,757	△ 383
⑦	現金及び現金同等物期末残高	1,752	1,472	279

営業CF : 税金等調整前四半期純利益738百万円や減価償却費265百万円等の増加要因により、キャッシュが978百万円増加となりました。

投資CF : 設備投資に伴う有形固定資産の取得による支出507百万円等により、485百万円の支出となりました。

フリーキャッシュフロー: 有形固定資産取得による支出等によりフリーキャッシュフローは492百万円となり、前年同期比1,726百万円増加となりました。

財務CF : 長期借入金の返済による支出200百万円及び配当金の支払による支出127百万円等の減少要因が、短期及び長期借入金による調達額220百万円等の増加要因を上回ったことにより、108百万円の減少となりました。

上記の結果、19/9中間期末の現金及び現金同等物は、期首より378百万円増加して1,752百万円となりました。

沿革



- 1957 株式会社 国際機械振動研究所(旧社名)を設立
- 1988 東京テストラボ開設
- 2005 ジャスダック証券取引所に上場
- 2011 10月、英国に IMV CORPORATION EUROPEAN TECHNICAL CENTRE を開設
(現 IMV EUROPE LIMITED)

- 2012 1月、タイに IMV (THAILAND) CO., LTD. (子会社)を設立
- 11月、ドイツに IMV CORPORATION German Sales Office を開設
(現 IMV EUROPE LIMITED German Sales Office)



IMV (THAILAND) CO., LTD.



IMV EUROPE LIMITED
German Sales Office



IMV株式会社 上海代表所

- 2013 5月、IMV株式会社 上海代表所を設立
- 2015 1月、英国にIMV EUROPE LIMITED European Manufacturing Centreを開設
- 11月、東京テストラボ 上野原サイト 高度試験センターを開設

- 2016 4月、米国にIMV America, Inc.(子会社)を開設
- 2017 7月、英国に1G DYNAMICS LIMITED.(子会社)を開設
- 2018 4月、ベトナムにIMV TECHNO VIETNAM COMPANY LIMITED.(子会社)を設立

12月、日本高度信頼性評価試験センター(e-TCJ)を開設

- 2019 1月、春日井テストラボを開設



IMV EUROPE LIMITED



東京テストラボ 上野原サイト
高度試験センター



IMV America, Inc.



1G DYNAMICS LIMITED



日本高度信頼性評価試験
センター



IMV TECHNO VIETNAM CO.,LTD.



春日井テストラボ



[SECURE THE FUTURE]



FIRST choice
for our Partners

IMVが見守る未来

IMVは1957年の設立以来、振動問題のソリューションパートナーとしてさまざまな分野と携わってきました。これからも、製品→パートナー→社会に対して、信頼を形にする企業であり続けます。

Future

安全を見つめて未来の社会に貢献します。

IMV work with our customers and investors to secure their future, developing the products, skills and resources that will bring success. IMV appreciate this and work fast to meet our Partners' future needs.

Integrity

誠実で開かれたパートナーシップを大切にします。

IMV treat our customers, suppliers and investors with the highest of integrity, dealing with all our partners in an open and honest manner. IMV work hard to earn and keep your trust.

Reliability

製品とサービス、すべてに信頼を作り込みます。

Our customers use IMV's products to ensure reliability and performance. We build this reliability into all our products and services. IMV will be there when you need us.

Strength

振動技術の世界リーダーとして経営基盤を強化します。

IMV's financial strength means we will be a long-term partner for our customers and able to invest in the research for new products. IMV have the strength in finances, products and people to serve our customers on a global basis. We have the strength to be the World's Number 1 Vibration Test and Measurement Company.

Technology

顧客ニーズに俊敏に応える技術を開発します。

IMV invest substantially in research to understand our Customers' needs and the products to meet those needs. IMV have been the first to market with many new products and technologies and we will continue to lead the market through technology and innovation for the benefit of our customers and investors.